

なし「にっこり」の高温障害対策の実証

要約

なし「にっこり」の高温障害対策として、結果枝密度を高める（慣行比 147%）ことで果実外部の焼けを一定程度軽減できることが確認された。

○ 展示のねらい

なしにおいて近年、夏季高温が原因と思われる果実外部の焼けが発生している。特に「にっこり」では、令和5、6年に本症状により上都賀地域でも多くの果実が廃棄され、同品種を栽培する上で大きな課題となっている。

そこで、結果枝の高密度化による高温障害果の発生軽減効果を実証した。

○ 主な成果

満開後 177 日に果実外部の焼けについて発生程度を調査した（各区 100 果）。

その結果、結果枝密度を $3.37\text{m}/\text{m}^2$ （対照区比 147%）配置した高密度区では、慣行区と比較して果実外部の焼けが軽減されることが確認された。また、果実品質は処理間に差はみられなかった。

表1 結果枝密度と果実外部の焼け

処理区	結果枝密度		外部の焼け (指数) 注
	密度 m/m^2	対照区比%	
高密度区	3.37	147	0.15
慣行区	2.28	—	0.36

注 発生程度別に0無、1軽、2中、3重とし、 $[(0 \times \text{個数}) + (1 \times \text{個数}) + (2 \times \text{個数}) + (3 \times \text{個数}) / 100]$ により算出。

表2 果実品質（満開後 177 日に各処理区 5 果を調査）

処理区	横径 mm	縦径 mm	果重 g	果皮色 C.C 注	糖度 Brix%
高密度区	112.2	104.2	713	4.4	12.3
慣行区	114.0	102.4	735	4.4	12.6

注 果皮色C.Cは、にっこりカラーチャート（JA 全農とちぎ、（一社）とちぎ農産物マーケティング協会）を使用。

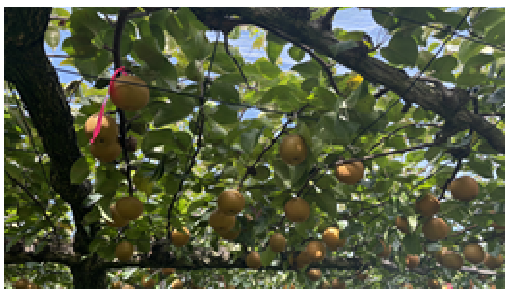


写真 結果枝の配置（左：高密度区、右：慣行区）

○ 今後の方向性

本試験は単年度で実施されたものであるため、年次による変動を調査、確認する必要がある。また、高密度化に伴い通常とは異なる受光態勢となることから、樹体への影響についても継続的に検討した上で普及性を判断する。

実施機関：上都賀農業振興事務所経営普及部

実施場所：鹿沼市

問合せ先：栃木県農政部経営技術課技術指導班 TEL 028-623-2322 FAX 028-623-2315